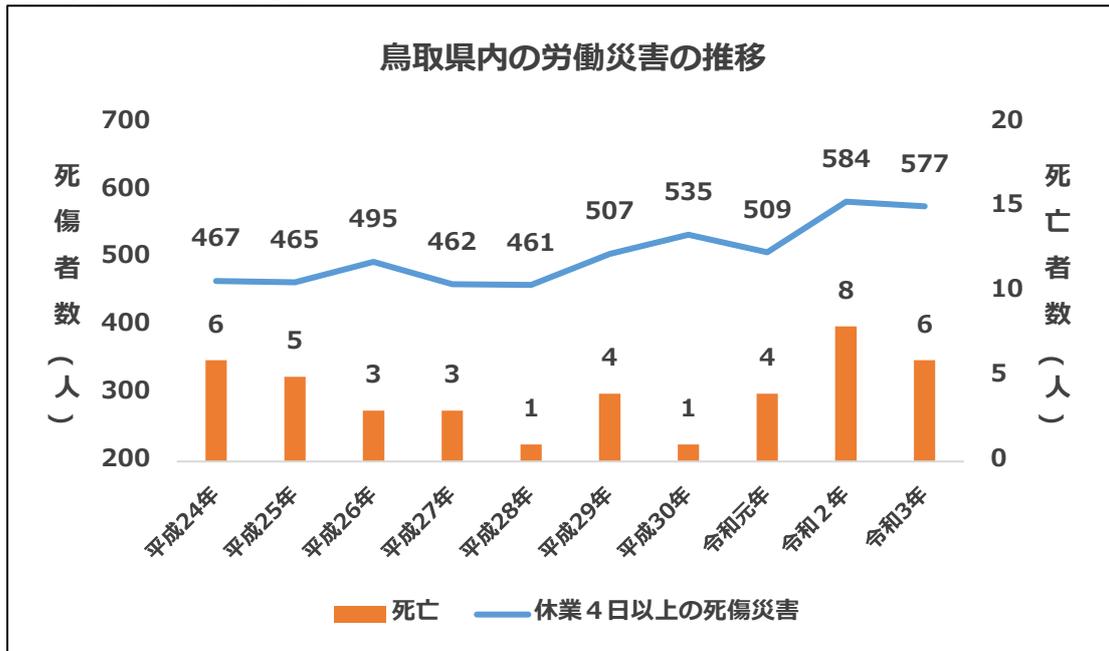


令和3年の鳥取県内における労働災害発生状況の概要

1 労働災害の推移

令和3年の休業4日以上死傷者数は577人、前年（令和2年）に比べて7人、1.2%減少。死亡者数は6人、前年（令和2年）の8人から2人減少。死傷者数、死亡者数とも高止まりの状態である。



2 死亡災害発生状況

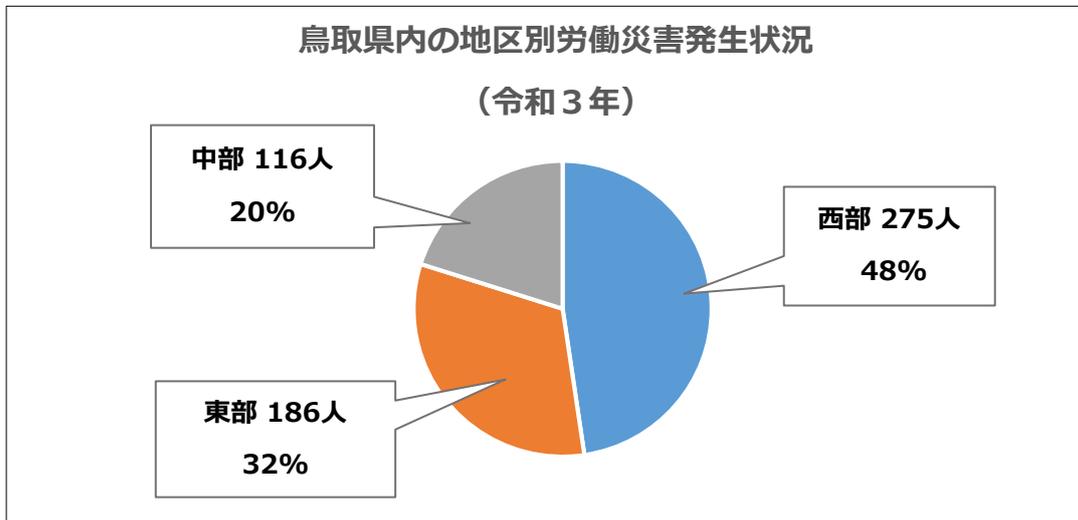
業種では建設業において4人、事故の型では「はさまれ・巻き込まれ」で3人が亡くなり、過去10年間に於いて、令和2年の8人に続き多い人数となった。

業種	発生月 発生時間帯	事故の型 起因物	災害の概要
接客娯楽業	2月 9～10	転倒 環境等	スキー場で、パトロールのためスキーで滑走中に転倒したもの。
建設業	8月 16～17	はさまれ・巻き込まれ トラック	工事現場内でコンクリートミキサー車が後退していたところ、轢かれたもの。
建設業	9月 14～15	その他 その他の環境等	建築物の解体現場にて散水作業中、突然出現した蜂に刺され、後日、症状が悪化したもの。
建設業	10月 9～10	はさまれ・巻き込まれ 整地・運搬・積み込み用 機械	現場写真を撮影中、後退してきたドラグ・ショベルに轢かれたもの。
製造業	10月 11～12	はさまれ・巻き込まれ 産業用ロボット	工場内にて製品の洗浄作業中、搬器の可動部分と製品が入った容器の間にはさまれたもの。
建設業	11月 14～15	交通事故(道路) その他の建設機械等	建設現場からコンクリートポンプ車で帰社中、橋梁のガードレールに接触して破損した後、橋梁下の川に墜落したもの。

3 地区別の労働災害発生状況

地区別の死傷者数は、東部地区は186人で前年と同数、中部地区は116人で前年比6人（5.5%）の増加、西部地区は275人で前年比13人（4.5%）の減少。

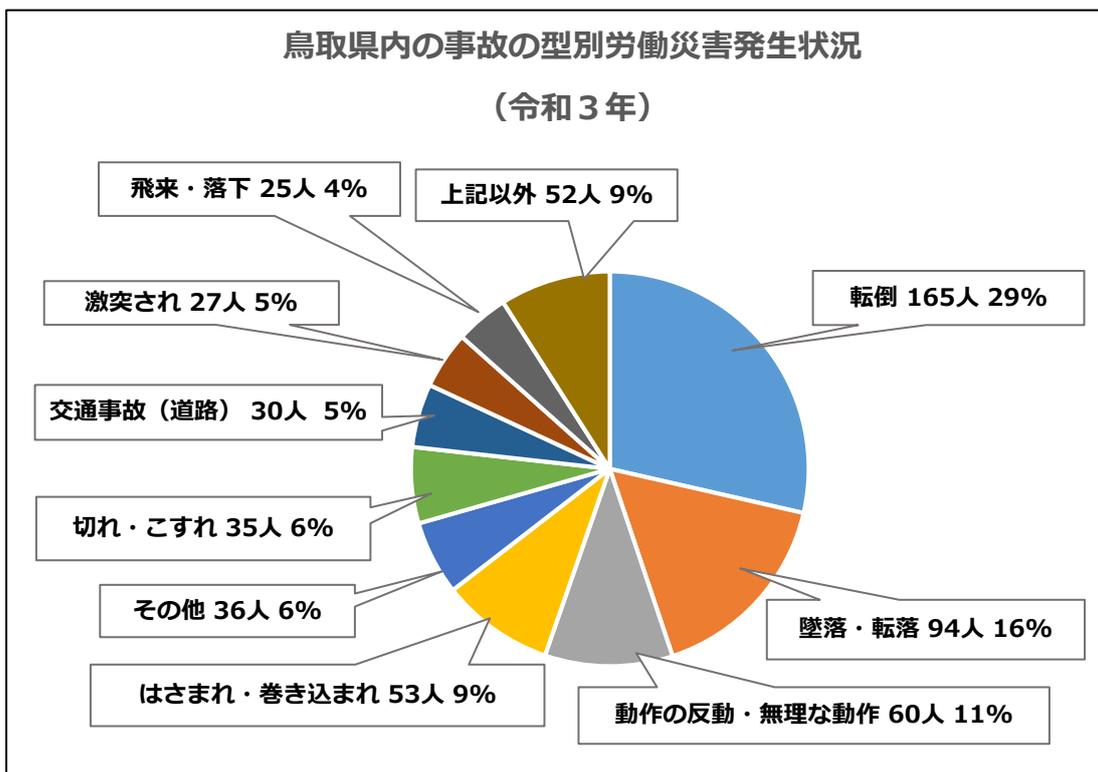
死傷者数は、西部地区が県内全体の48%を占める状況にある。

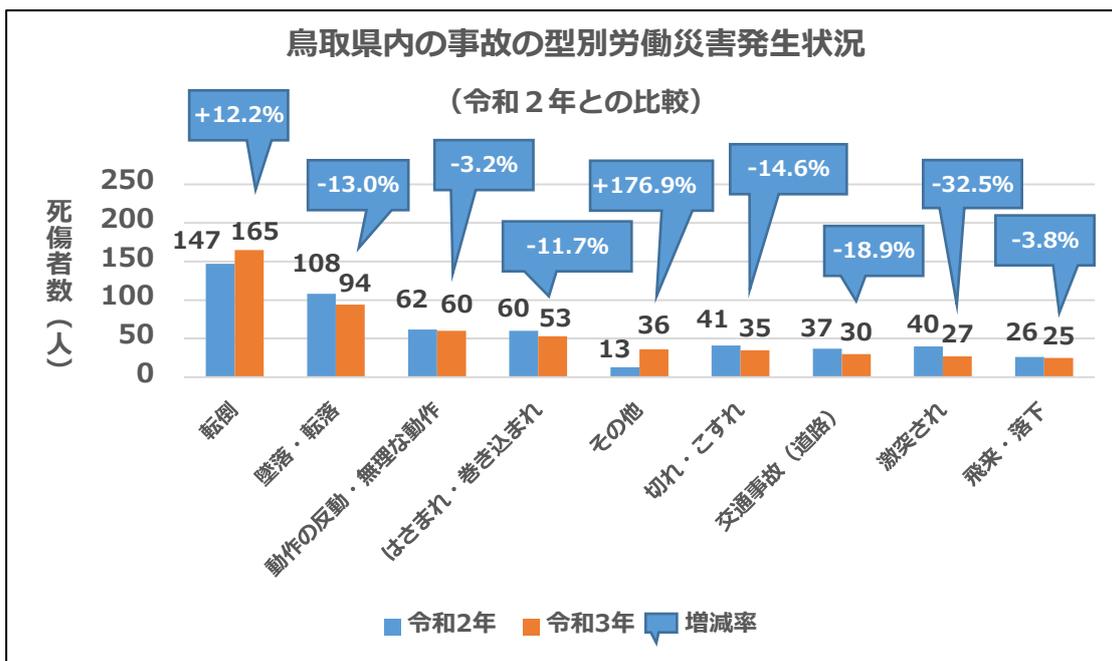


4 事故の型別の労働災害発生状況

県内の休業4日以上死傷者数を事故の型別にみると、多い順に「転倒」が165人（全体の29%）で前年比18人（12.2%）増加、「墜落・転落」が94人（全体の16%）で前年比14人（13.0%）減少。「転倒」、「墜落・転落」の2つで全体の45%を占める。

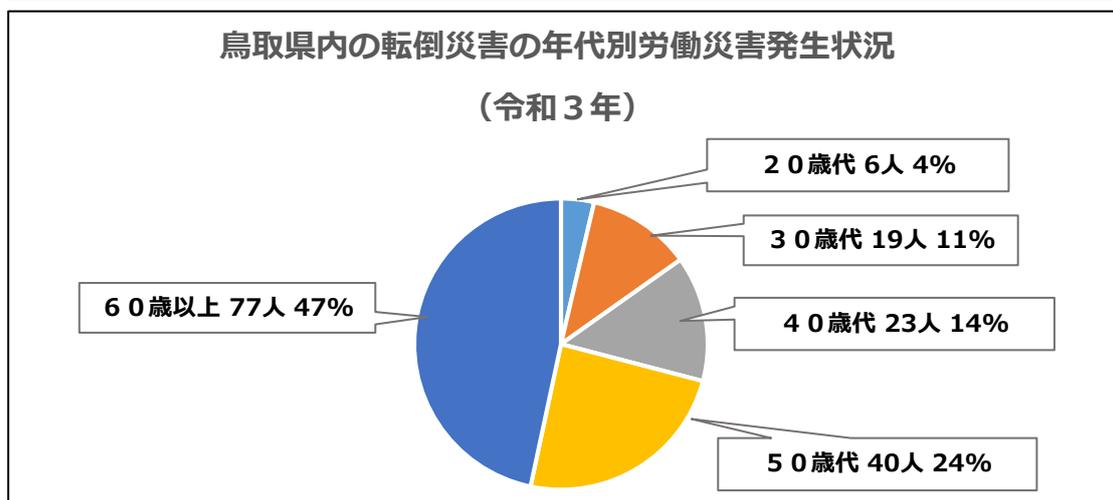
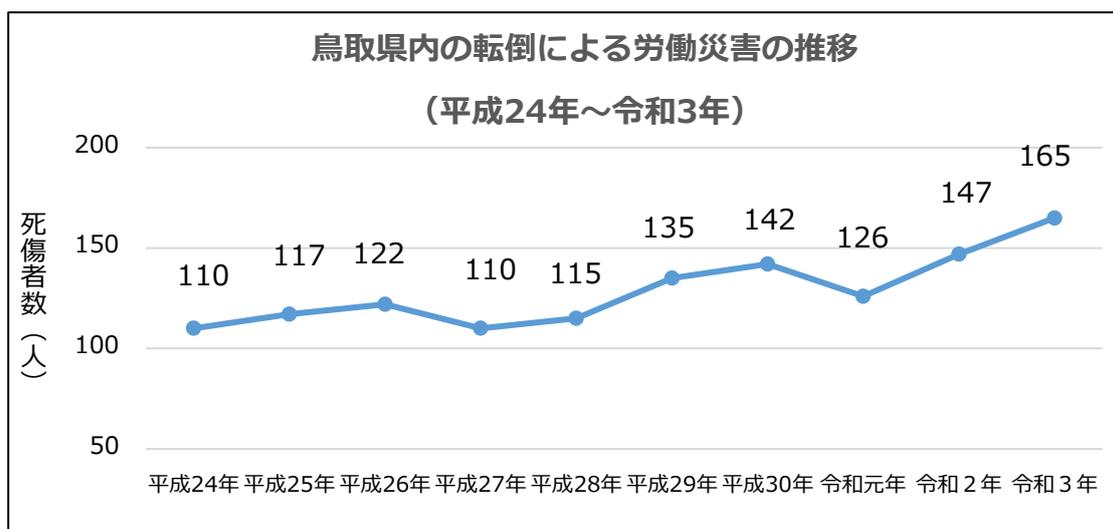
なお、新型コロナウイルス感染症による休業は27人で「その他」に含まれており、「その他」は前年比23人（176.9%）の増加となった。





「転倒」災害は年々増加傾向にある。

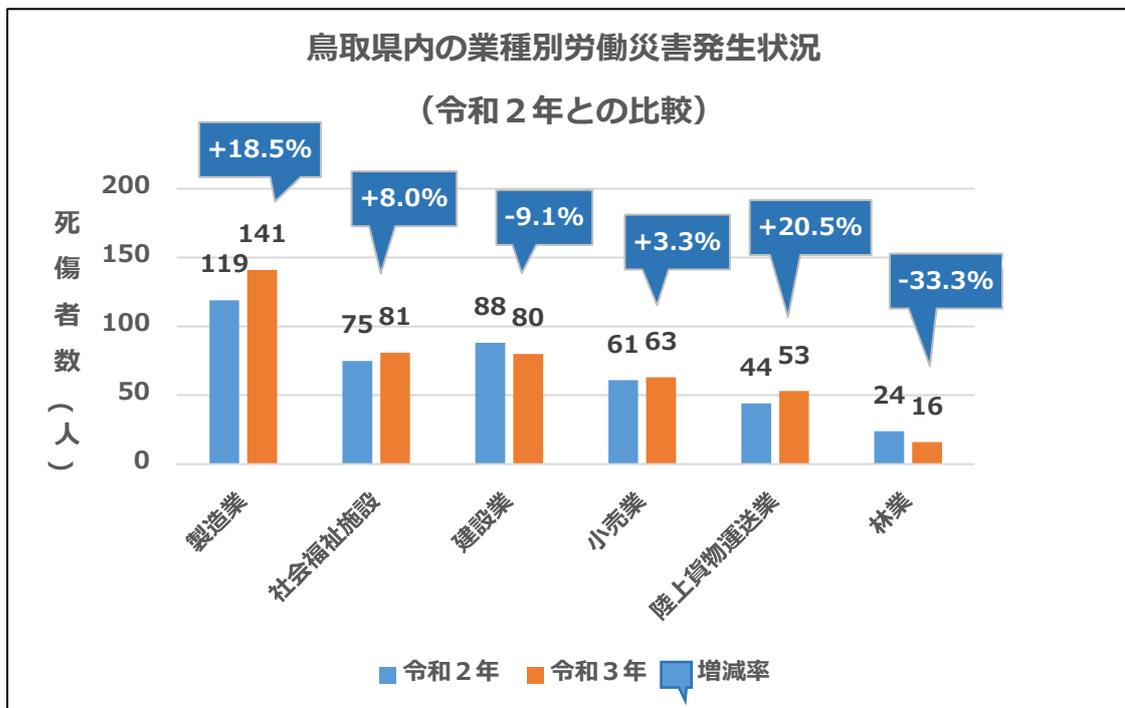
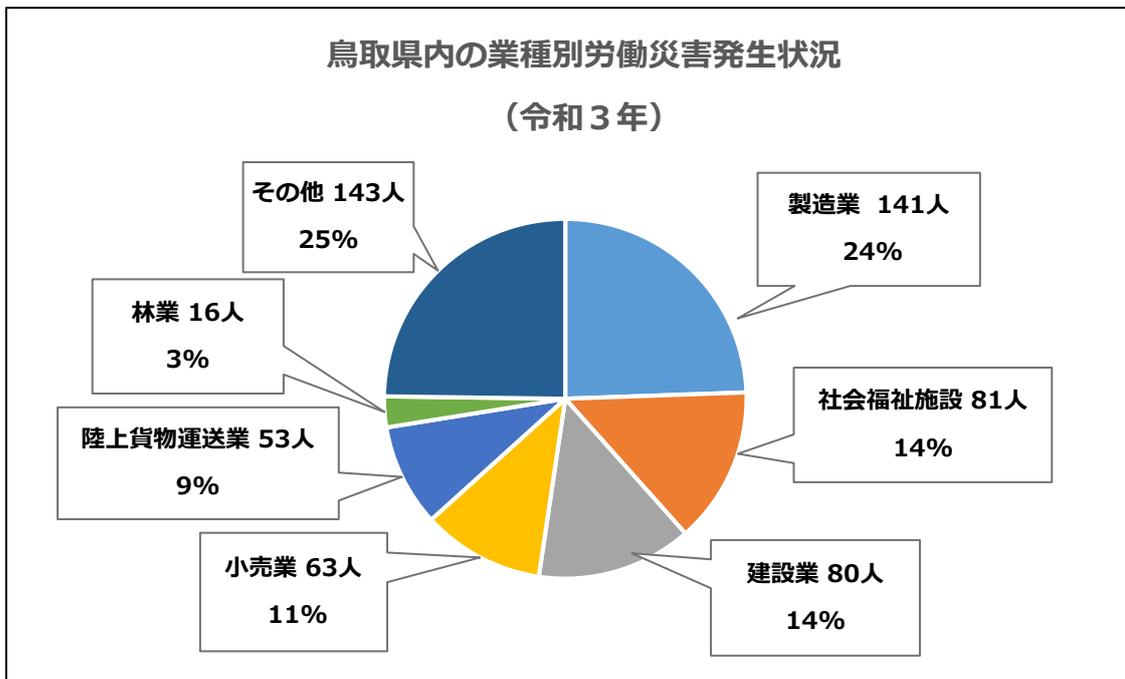
「転倒」災害を年齢別にみると、60歳以上が最も多く47%、次いで50歳代が24%であり、50歳以上の割合が71%を占める。



5 業種別の労働災害発生状況

業種別にみると、製造業が141人(全体の24%)、社会福祉施設が81人(全体の14%)、建設業が80人(全体の14%)の順となっている。

昨年との比較では、陸上貨物運送業が前年比9人、20.5%の増加、製造業が141人で前年比22人、18.5%の増加と目立つ一方、林業では前年比8人、33.3%の減少となっている。



6 年齢別の労働災害発生状況

年齢別に県内の休業4日以上死傷者数をみると、60歳以上が168人（29%）と最も多く、次いで50歳代が125人（22%）。50歳以上で51%を占めている。

